



なぜあいさつが必要なのか

生活指導主任

どんな学校でも、しっかりあいさつをすることは大切なこととされています。当校の4・5月の生活目標も「あいさつや返事をしっかりしよう」です。生活委員会は毎朝、児童玄関であいさつ運動に取り組んでいます。

学校に限らず、この世に存在するコミュニティでは、あいさつは重要です。あいさつができないようでは社会人として失格とすら言われてしまいます。昆虫の世界でも、アリやハチなどの社会的な昆虫はあいさつをしています。

あいさつはなぜ必要なのでしょう。

昆虫の世界のあいさつは「情報交換」が主な目的であろうと考えられています。あっちに餌がたくさんあるぞ、敵が近づいているぞ、など、その情報はコミュニティを維持するのに非常に重要なものが多いようです。

人間のあいさつも情報提供としての役割が大きいと思います。あいさつはその人の性格や心情を表します。いつも元気なあいさつをする人が、あいさつをしなければ、何かあったのかな、具合が悪いのかな、などという情報になります。

ところで、あいさつが苦手という人が子どもにも大人にもいます。実は私もあまり得意ではありません。子どものころから家であいさつをする習慣があまりなく、大人になってもその影響が残っているでしょう。

あいさつをしないと、コミュニティの中で孤立してしまうような気がしますが、あいさつは声に出さなくてもできます。例えば会釈。すれ違う時に会釈するだけで、相手に十分敬意は伝わります。これは自己表現が苦手な人でもできます。

言葉を使わない、もっと高度なあいさつもあります。アイコンタクトです。目と目を合わせ、ニコリとすることで気持ちが伝わります。当校にもアイコンタクトで私にあいさつをする子がいます。スポーツの世界では、アイコンタクトは重要な連携手段です。

あいさつは重要です。しかし、そのやり方は個の特性に応じたもので十分だと思います。大きな声で元気よくあいさつするのもよし。会釈するのもよし。アイコンタクトでのあいさつもよし。どんな形であれ、あいさつであふれる学校、コミュニティでありたいものです。



はしリンピック 2023 (9/16) マラソン記録会 (10/12)



たのしくてくやしかったはしリンピック

がんばったマラソン

はじめてのはしリンピックをしました。いっしょうけんめいはりました。おいぬかれたのがくやしかったです。つぎは一いをとりたいです。



「手をいっぱいふる」とめあてをきめて、寺山公園で何回も走りました。本番では、れんしゅうと同じように走れました。来年も全力で走りたいです。



楽しかったはしリンピック

走り切った1100m

かり人きょう走で、お題が「左ききの人」と出て、すぐに、手をあげてくれる人がいてびっくりしました。はやくゴールできたけれど、2位でくやしかったです。来年は1位をとれるようにがんばりたいです。



本番では、「最後まであきらめないで走る」と決めて、1回も歩かないで走りきり、目標タイムをこえることができました。うれしかったです。このマラソン記録会を通して、あきらめない心が大事だと学びました。



楽しかったつな引き

あきらめずに走ったマラソン記録会

私たち5年生は、つな引きをしました。ふつうのつな引きとは少しちがって、スタートの合図でつなまで走って引っぱります。私は一生けん命に走ってつなを強くつかみ、思い切り引っぱりました。総合優勝できて、とてもうれしかったです。



私はマラソン記録会で、緊張はありましたが、ボランティアさんや、みんなのお家の人の応援のおかげで、最後まで走り切ることができました。またマラソンは、体力、気合、あきらめずに走る心が大事だと思ったので、それを目標に精一杯走りました。6年生でも最後までがんばって、あきらめずに走り切りたいです。



小学校生活 最初で最後の大玉送り

みんなを応援したマラソン記録会

私は、初めて大玉送りをしました。負けてしまったけれど、自分なりに頑張ってしっかり前へ大玉を送ることができたと思います。友達と「あ！来たよ来たよ！」と声を掛け合い、大玉を一緒に送る時がとても楽しかったです。友達と協力し合い、楽しく競技することができました。小学校生活最後の運動会、思い出に残るものになりました。



ぼくは、足をけがして見学でしたが、頑張っているみんなの姿を見て、全員を平等に応援しようと思いました。途中でのどが痛くなっただけで、声を張って応援し、走り終わった友達には「頑張ったね」と声を掛けました。最後の年は走れなかったけれど、みんなのことを応援できてよかったです。ぼくはこれからも、人を応援する気持ちをいろいろな場面で伝えていきたいと思いました。



